



IPv6 MLD スヌーピングの設定

スイッチ上で Multicast Listener Discovery (MLD) スヌーピングを使用して、スイッチド ネットワーク内のクライアントおよびルータに IP Version 6 (IPv6) マルチキャスト データを効率的に配信することができます。特に記述がない限り、スイッチという用語はスタンドアロンスイッチとスイッチ スタックを意味しています。



(注)

IPv6 を使用するには、デュアル IPv4 および IPv6 Switch Database Management (SDM; スイッチ データベース管理) テンプレートがスイッチに設定されている必要があります。テンプレートの選択は、**sdm prefer dual-ipv4-and-ipv6 {default | routing | vlan}** グローバル コンフィギュレーション コマンドで行います。

関連情報については、次の章を参照してください。

- SDM テンプレートの詳細については、[第 8 章「SDM テンプレートの設定」](#)を参照してください。
- スイッチ上の IPv6 については、[第 40 章「IPv6 ホスト機能およびユニキャスト ルーティングの設定」](#)を参照してください。



(注)

この章で使用するコマンドの構文および使用方法の詳細については、このリリースに対応するコマンド リファレンスまたは手順に記載された Cisco IOS のマニュアルを参照してください。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「[MLD スヌーピングの概要](#)」 (P.25-1)
- 「[IPv6 MLD スヌーピングの設定](#)」 (P.25-6)
- 「[MLD スヌーピング情報の表示](#)」 (P.25-13)

MLD スヌーピングの概要

IP Version 4 (IPv4) では、レイヤ 2 スイッチは Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネットグループ管理プロトコル) スヌーピングを使用して、ダイナミックにレイヤ 2 インターフェイスを設定することにより、マルチキャストトラフィックのフラッドを抑制します。そのため、マルチキャストトラフィックは IP マルチキャストデバイスに対応付けられたインターフェイスにだけ転送されます。IPv6 では、MLD スヌーピングが同様の機能を実行します。MLD スヌーピングを使用すると、IPv6 マルチキャストデータは VLAN 内のすべてのポートにフラッドされるのではなく、データを受信するポートのリストに選択的に転送されます。このリストは、IPv6 マルチキャスト制御パケットをスヌーピングすることにより構築されます。

MLD は IPv6 マルチキャスト ルータで使用されるプロトコルで、ルータに直接接続されたリンク上のマルチキャスト リスナー (IPv6 マルチキャスト パケットを受信するノード) の存在、およびネイバーノードを対象とするマルチキャスト パケットを検出します。MLD は IGMP から派生しています。MLD バージョン 1 (MLDv1) は IGMPv2 と同等であり、MLD バージョン 2 (MLDv2) は IGMPv3 と同等です。MLD は Internet Control Message Protocol バージョン 6 (ICMPv6) のサブプロトコルで、MLD メッセージは ICMPv6 メッセージのサブセットであり、IPv6 パケット内で先頭の Next Header 値 58 により識別されます。

スイッチは、次の 2 つのバージョンの MLD スヌーピングをサポートします。

- MLDv1 スヌーピングは MLDv1 制御パケットを検出し、IPv6 宛先マルチキャスト アドレスに基づいてトラフィックのブリッジングを設定します。
- MLDv2 Basic Snooping (MBSS; MLDv2 基本スヌーピング) は MLDv2 制御パケットを使用して、IPv6 宛先マルチキャスト アドレスに基づいてトラフィックの転送を設定します。

スイッチは MLDv1 プロトコル パケットと MLDv2 プロトコル パケットの両方でスヌーピングでき、宛先 IPv6 マルチキャスト アドレスに基づいて IPv6 マルチキャスト データをブリッジングします。



(注)

スイッチは、IPv6 送信元および宛先マルチキャスト アドレススペースの転送を設定する MLDv2 拡張スヌーピング (MESS) をサポートしません。

MLD スヌーピングは、グローバルまたは VLAN 単位でイネーブルまたはディセーブルに設定できます。MLD スヌーピングイネーブルの場合、VLAN 単位の IPv6 マルチキャスト MAC アドレス テーブルはソフトウェアで構築され、VLAN 単位の IPv6 マルチキャスト アドレス テーブルはソフトウェアおよびハードウェアで構築されます。その後、スイッチはハードウェアで IPv6 マルチキャスト アドレスに基づくブリッジングを実行します。

IPv6 マルチキャスト標準に従い、Catalyst Switch Module 3110 は、自身の MAC アドレスの下位 4 オクテットと MAC アドレス 33:33:00:00:00:00 の論理 OR を実行して、MAC マルチキャスト アドレスを抽出します。たとえば、IPv6 の MAC アドレス FF02:DEAD:BEEF:1:3 は、イーサネットの MAC アドレス 33:33:00:01:00:03 にマッピングされます。

Catalyst Switch Module 3110 では、宛先 IPv6 アドレスが宛先 MAC アドレスと一致しない場合、マルチキャスト パケットは不一致になります。スイッチは、一致しないパケットをハードウェア ベースの MAC アドレス テーブルによって転送します。MAC 宛先アドレスが MAC アドレス テーブルにない場合、スイッチは受信したポートと同じ VLAN 内のすべてのポートにパケットをフラッドリングします。

次に、IPv6 MLD スヌーピングの一部のパラメータについて説明します。

- 「MLD メッセージ」 (P.25-3)
- 「MLD クエリー」 (P.25-3)
- 「マルチキャスト クライアントのエージングのロバストネス」 (P.25-4)
- 「マルチキャスト ルータ検出」 (P.25-4)
- 「MLD レポート」 (P.25-4)
- 「MLD Done メッセージおよび即時脱退」 (P.25-5)
- 「トポロジ変更通知処理」 (P.25-5)
- 「スイッチ スタック内の MLD スヌーピング」 (P.25-5)

MLD メッセージ

MLDv1 は、次の 3 種類のメッセージをサポートします。

- Listener Query : IGMPv2 クエリーと同等で、General Query または Multicast-Address-Specific Query (MASQ) のいずれかになります。
- Multicast Listener Report : IGMPv2 レポートと同等です。
- Multicast Listener Done メッセージ : IGMPv2 Leave メッセージと同等です。

MLDv2 では、MLDv1 レポートおよび Done メッセージに加えて、MLDv2 クエリーおよび MLDv2 レポートもサポートします。

メッセージの送受信の結果生じるメッセージ タイマーおよびステート移行は、IGMPv2 メッセージの場合と同じです。リンクに対してローカルで有効な IPv6 送信元アドレスを持たない MLD メッセージは、MLD ルータおよび MLD スイッチで無視されます。

MLD クエリー

スイッチは MLD クエリーを送信し、IPv6 マルチキャスト アドレス データベースを構築し、MLD グループ固有クエリー、MLD グループおよび送信元固有クエリーを生成して、MLD Done メッセージに応答します。また、スイッチはレポート抑制、レポート プロキシング、即時脱退機能、およびスタティックな IPv6 マルチキャスト MAC アドレス設定もサポートします。

MLD スヌーピングがディセーブルの場合、すべての MLD クエリーが入力 VLAN でフラッディングされます。

MLD スヌーピングがイネーブルの場合、受信された MLD クエリーが入力 VLAN でフラッディングされ、クエリーのコピーは CPU に送信されて処理されます。MLD スヌーピングでは受信されたクエリーから IPv6 マルチキャスト アドレス データベースを構築します。MLD スヌーピングは、マルチキャスト ルータ ポートを検出して、タイマーを維持し、レポート応答時間を設定します。また、VLAN のクエリア IP 送信元アドレス、VLAN 内のクエリア ポートを学習して、マルチキャストアドレス エージングを維持します。



(注)

Catalyst Switch Module 3110 では、IPv6 マルチキャスト ルータが Catalyst 6500 スイッチであり、拡張 VLAN (範囲 1006 ~ 4094) が使用されている場合、Catalyst 6500 スイッチが拡張 VLAN 上でクエリーを受信できるように、Catalyst 6500 スイッチ上で拡張 VLAN に対する IPv6 MLD スヌーピングをイネーブルにする必要があります。標準範囲 VLAN (1 ~ 1005) の場合、IPv6 MLD スヌーピングを Catalyst 6500 スイッチの VLAN でイネーブルにする必要はありません。

Catalyst Switch Module 3012 では、IPv6 マルチキャスト ルータが Catalyst スイッチであり、拡張 VLAN (範囲 1006 ~ 4094) が使用されている場合、スイッチが拡張 VLAN 上でクエリーを受信できるように、IPv6 マルチキャスト ルータ上で拡張 VLAN に対する IPv6 MLD スヌーピングをイネーブルにする必要があります。標準範囲 VLAN (1 ~ 1005) の場合、IPv6 MLD スヌーピングを IPv6 ルータの VLAN でイネーブルにする必要はありません。

グループが MLD スヌーピング データベースに存在する場合、スイッチは MLDv1 レポートを送信して、グループ固有のクエリーに応答します。このグループが不明の場合、グループ固有のクエリーは入力 VLAN にフラッディングされます。

ホストがマルチキャスト グループから脱退する場合、MLD Done メッセージ (IGMP Leave メッセージと同様) を送信できます。スイッチが MLDv1 Done メッセージを受信した際に、即時脱退がイネーブルでなければ、スイッチはメッセージを受信したポートに MASQ を送信して、ポートに接続する他のデバイスがマルチキャスト グループに残る必要があるかどうか判別します。

マルチキャスト クライアントのエージングのロバストネス

クエリー数に基づいて、アドレスからのポート メンバーシップの削除を設定できます。1 つのアドレスに対するメンバーシップからポートが削除されるのは、設定された数のクエリーに関してポート上のアドレスに対するレポートがない場合だけです。デフォルト値は 2 です。

マルチキャスト ルータ検出

IGMP スヌーピングと同様に、MLD スヌーピングでは次の特性を持つマルチキャストルータ検出を行います。

- ユーザにより設定されたポートは、エージングアウトしません。
- ダイナミックなポート学習は、MLDv1 スヌーピング クエリーおよび IPv6 PIMv2 パケットにより行われます。
- 複数のルータが同じレイヤ 2 インターフェイス上にある場合、MLD スヌーピングではポート上の単一マルチキャスト ルータ（直前にルータ制御パケットを送信したルータ）をトラッキングします。
- マルチキャストルータポートのダイナミックなエージングは、デフォルト タイマーの 5 分に基づきます。ポート上で制御パケットが 5 分間受信されない場合、マルチキャスト ルータはルータのポート リストから削除されます。
- IPv6 マルチキャスト ルータ検出が実行されるのは、MLD スヌーピングがスイッチでイネーブルの場合だけです。
- 受信された IPv6 マルチキャスト ルータ制御パケットは、スイッチで MLD スヌーピングがイネーブルかどうかにかかわらず、常に入力 VLAN にフラッディングされます。
- 最初の IPv6 マルチキャスト ルータ ポートが検出された後は、不明の IPv6 マルチキャスト データは、検出されたルータ ポートに対してだけ転送されます（それまでは、すべての IPv6 マルチキャスト データは入力 VLAN にフラッディングされます）。

MLD レポート

MLDv1 join メッセージは、本質的には IGMPv2 と同じように処理されます。IPv6 マルチキャスト ルータが VLAN で検出されない場合は、レポートが処理されないか、またはスイッチから転送されません。IPv6 マルチキャスト ルータが検出され、MLDv1 レポートが受信されると、IPv6 マルチキャスト グループ アドレスおよび IPv6 マルチキャスト MAC アドレスが VLAN の MLD データベースに入力されます。その後、VLAN 内のグループに対するすべての IPv6 マルチキャスト トラフィックが、このアドレスを使用して転送されます。MLD スヌーピングがディセーブルの場合、レポートは入力 VLAN でフラッディングされます。

MLD スヌーピングがイネーブルの場合は、MLD レポート抑制（リスナー メッセージ抑制）は自動的にイネーブルになります。レポート抑制により、スイッチはグループで受信された最初の MLDv1 レポートを IPv6 マルチキャスト ルータに転送します。グループのそれ以降のレポートはルータに送信されません。MLD スヌーピングがディセーブルの場合は、レポート抑制がディセーブルになり、すべての MLDv1 レポートは入力 VLAN にフラッディングされます。

スイッチは、MLDv1 プロキシ レポートもサポートします。MLDv1 MASQ が受信されると、スイッチに他のポートグループが存在する場合、およびクエリーを受信したポートとアドレスの最後のメンバー ポートが異なる場合は、スイッチはクエリーを受信したアドレスに関する MLDv1 レポートで応答します。

MLD Done メッセージおよび即時脱退

即時脱退機能がイネーブルの場合にホストが MLDv1 Done メッセージ (IGMP Leave メッセージと同等) を送信すると、Done メッセージを受信したポートはグループからただちに削除されます。VLAN で即時脱退をイネーブルにする場合は (IGMP スヌーピングと同様に)、ポートに単一のホストが接続されている VLAN でだけこの機能を使用します。ポートがグループの最後のメンバーである場合、グループも削除され、検出された IPv6 マルチキャスト ルータに脱退情報が転送されます。

VLAN で即時脱退がイネーブルでない場合に (1 つのポート上にグループのクライアントが複数ある場合)、Done メッセージがポートで受信されると、このポートで MASQ が生成されます。ユーザは、既存アドレスのポート メンバーシップが削除される時期を MASQ 数の観点から制御できます。アドレスに対するメンバーシップからポートが削除されるのは、設定された数のクエリーに関してポート上のアドレスに対する MLDv1 レポートがない場合です。

生成される MASQ 数は、**ipv6 mld snooping last-listener-query count** グローバル コンフィギュレーション コマンドにより設定されます。デフォルト値は 2 です。

MASQ は、Done メッセージが送信された IPv6 マルチキャストアドレスに送信されます。スイッチの最大応答時間内に MASQ で指定された IPv6 マルチキャストアドレスにレポートが送信されなければ、MASQ が送信されたレポートは IPv6 マルチキャスト アドレス データベースから削除されます。最大応答時間は、**ipv6 mld snooping last-listener-query-interval** グローバル コンフィギュレーション コマンドにより設定されます。削除されたポートがマルチキャストアドレスの最後のメンバーである場合は、マルチキャストアドレスも削除され、スイッチは検出されたマルチキャスト ルータすべてにアドレス脱退情報を送信します。

トポロジ変更通知処理

ipv6 mld snooping tcn query solicit グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、Topology Change Notification (TCN; トポロジ変更通知) 送信請求をイネーブルにすると、MLDv1 スヌーピングは、設定された数の MLDv1 クエリーによりすべての IPv6 マルチキャスト トラフィックをフラディングするように VLAN に設定してから、選択されたポートに限定してマルチキャストデータの送信を開始します。この値は、**ipv6 mld snooping tcn flood query count** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定します。デフォルトでは、2 つのクエリーが送信されます。スイッチが VLAN 内の STP ルートになる場合、またはスイッチがユーザにより設定された場合は、リンクに対してローカルで有効な IPv6 送信元アドレスを持つ MLDv1 グローバル Done メッセージも生成されます。これは IGMP スヌーピングの場合と同じです。

スイッチ スタック内の MLD スヌーピング

スイッチが IPv6 マルチキャスト グループを学習したかどうかには関係なく、MLD IPv6 グループおよび MAC アドレス データベースはスタック内のすべてのスイッチ上で保持されます。レポート抑制およびプロキシ レポートはスタック全体で実行されます。スイッチがレポートを受信したかどうかには関係なく、最大応答時間の間にグループに対して受信された 1 つのレポートだけがマルチキャスト ルータに転送されます。

新しいスタック マスターの選出は IPv6 マルチキャスト データの学習またはブリッジングには影響せず、スタック マスターの再選出の間も IPv6 マルチキャスト データのブリッジングは停止しません。新しいスイッチがスタックに追加されると、スタック マスターから学習した IPv6 マルチキャスト情報との同期が取られます。同期が完了するまで、新しく追加されたスイッチに入力されたデータは不明なマルチキャスト データとして扱われます。

IPv6 MLD スヌーピングの設定

ここでは、IPv6 MLD スヌーピングを設定する方法について説明します。

- 「MLD スヌーピングのデフォルト設定」 (P.25-6)
- 「MLD スヌーピング設定時の注意事項」 (P.25-7)
- 「MLD スヌーピングのイネーブル化およびディセーブル化」 (P.25-7)
- 「スタティックなマルチキャスト グループの設定」 (P.25-9)
- 「マルチキャスト ルータ ポートの設定」 (P.25-9)
- 「MLD 即時脱退のイネーブル化」 (P.25-10)
- 「MLD スヌーピング クエリーの設定」 (P.25-11)
- 「MLD リスナー メッセージ抑制のディセーブル化」 (P.25-12)

MLD スヌーピングのデフォルト設定

表 25-1 に、MLD スヌーピングのデフォルト設定を示します。

表 25-1 MLD スヌーピングのデフォルト設定

機能	デフォルト設定
MLD スヌーピング (デフォルト)	ディセーブル。
MLD スヌーピング (VLAN 単位)	イネーブル。VLAN MLD スヌーピングが実行されるために、MLD スヌーピングがグローバルにイネーブルである必要があります。
IPv6 マルチキャスト アドレス	設定なし。
IPv6 マルチキャスト ルータ ポート	設定なし。
MLD スヌーピング即時脱退	ディセーブル。
MLD スヌーピングのロバストネス変数	グローバル：2、VLAN 単位：0。 (注) VLAN 値はグローバル設定を上書きします。VLAN 値が 0 の場合、VLAN はグローバル数を使用します。
最後のリスナー クエリー カウント	グローバル：2、VLAN 単位：0。 (注) VLAN 値はグローバル設定を上書きします。VLAN 値が 0 の場合、VLAN はグローバル数を使用します。
最後のリスナー クエリー インターバル	グローバル：1000 (1 秒)、VLAN：0。 (注) VLAN 値はグローバル設定を上書きします。VLAN 値が 0 の場合、VLAN はグローバルのインターバルを使用します。
TCN クエリー送信請求	ディセーブル。
TCN クエリー カウント	2
MLD リスナー抑制	ディセーブル。

MLD スヌーピング設定時の注意事項

MLD スヌーピングの設定時は、次の注意事項に従ってください。

- MLD スヌーピングの特性はいつでも設定できますが、設定を有効にするには、**ipv6 mld snooping** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して MLD スヌーピングをグローバルにイネーブルにする必要があります。
- Catalyst Switch Module 3110 では、IPv6 マルチキャスト ルータが Catalyst 6500 スイッチであり、拡張 VLAN (範囲 1006 ~ 4094) が使用されている場合、Catalyst 6500 スイッチが拡張 VLAN 上でクエリーを受信できるように、Catalyst 6500 スイッチ上で拡張 VLAN に対する IPv6 MLD スヌーピングをイネーブルにする必要があります。標準範囲 VLAN (1 ~ 1005) の場合、IPv6 MLD スヌーピングを Catalyst 6500 スイッチの VLAN でイネーブルにする必要はありません。
- Catalyst Switch Module 3012 では、IPv6 マルチキャスト ルータが Catalyst スイッチであり、拡張 VLAN (範囲 1006 ~ 4094) が使用されている場合、Catalyst スイッチが拡張 VLAN 上でクエリーを受信できるように、Catalyst スイッチ上で拡張 VLAN に対する IPv6 MLD スヌーピングをイネーブルにする必要があります。標準範囲 VLAN (1 ~ 1005) の場合、IPv6 MLD スヌーピングをマルチキャスト ルータの VLAN でイネーブルにする必要はありません。
- MLD スヌーピングと IGMP スヌーピングは相互に独立して動作します。スイッチで両方の機能を同時にイネーブルにできます。
- スイッチまたはスイッチ スタックに保持可能なマルチキャスト エントリの最大数は、設定された SDM テンプレートによって決まります。
- スイッチまたはスイッチ スタックに保持可能なアドレス エントリの最大数は 1000 です。

MLD スヌーピングのイネーブル化およびディセーブル化

デフォルトでは、IPv6 MLD スヌーピングはスイッチではグローバルにディセーブルで、すべての VLAN ではイネーブルです。MLD スヌーピングがグローバルにディセーブルの場合は、すべての VLAN でもディセーブルです。MLD スヌーピングをグローバルにイネーブルにすると、VLAN 設定はグローバル設定を上書きします。つまり、MLD スヌーピングはデフォルト ステート (イネーブル) の VLAN インターフェイスでだけイネーブルになります。

VLAN 単位または VLAN 範囲で MLD スヌーピングをイネーブルおよびディセーブルにできますが、MLD スヌーピングをグローバルにディセーブルにした場合は、すべての VLAN でディセーブルになります。グローバル スヌーピングがイネーブルの場合、VLAN スヌーピングをイネーブルまたはディセーブルに設定できます。

スイッチ上で MLD スヌーピングをグローバルにイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	ipv6 mld snooping	スイッチで MLD スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

スイッチで MLD スヌーピングをグローバルにディセーブルにするには、**no ipv6 mld snooping** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

VLAN で MLD スヌーピングをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。



(注) Catalyst Switch Module 3110 では、IPv6 マルチキャスト ルータが Catalyst 6500 スイッチであり、拡張 VLAN (範囲 1006 ~ 4094) が使用されている場合、Catalyst 6500 スイッチが拡張 VLAN 上でクエリーを受信できるように、Catalyst 6500 スイッチ上で拡張 VLAN に対する IPv6 MLD スヌーピングをイネーブルにする必要があります。標準範囲 VLAN (1 ~ 1005) の場合、IPv6 MLD スヌーピングを Catalyst 6500 スイッチの VLAN でイネーブルにする必要はありません。

Catalyst Switch Module 3012 では、IPv6 マルチキャスト ルータが Catalyst スイッチであり、拡張 VLAN (範囲 1006 ~ 4094) が使用されている場合、Catalyst スイッチが拡張 VLAN 上でクエリーを受信できるように、Catalyst スイッチ上で拡張 VLAN に対する IPv6 MLD スヌーピングをイネーブルにする必要があります。標準範囲 VLAN (1 ~ 1005) の場合、IPv6 MLD スヌーピングを Catalyst スイッチの VLAN でイネーブルにする必要はありません。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>ipv6 mld snooping</code>	スイッチで MLD スヌーピングをグローバルにイネーブルにします。
ステップ 3	<code>ipv6 mld snooping vlan <i>vlan-id</i></code>	VLAN で MLD スヌーピングをイネーブルにします。指定できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。 (注) VLAN スヌーピングをイネーブルにするには、MLD スヌーピングがグローバルにイネーブルである必要があります。
ステップ 4	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

VLAN インターフェイス上で MLD スヌーピングをディセーブルにするには、`no ipv6 mld snooping vlan vlan-id` グローバル コンフィギュレーション コマンドを、指定した VLAN 番号に対して使用します。

スタティックなマルチキャスト グループの設定

ホストまたはレイヤ 2 ポートは、通常マルチキャスト グループにダイナミックに加入しますが、VLAN に IPv6 マルチキャスト アドレスおよびメンバー ポートをスタティックに設定することもできます。

マルチキャスト グループのメンバーとしてレイヤ 2 ポートを追加するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	ipv6 mld snooping vlan <i>vlan-id</i> static ipv6_multicast_address interface interface-id	マルチキャスト グループのメンバーとしてレイヤ 2 ポートにマルチキャスト グループを静的に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <i>vlan-id</i> は、マルチキャスト グループの VLAN ID です。指定できる VLAN ID 範囲は 1 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。 <i>ipv6_multicast_address</i> は、128 ビットのグループ IPv6 アドレスです。このアドレスは RFC 2373 で指定された形式でなければなりません。 <i>interface-id</i> は、メンバー ポートです。物理インターフェイスまたはポート チャネル (1 ~ 72) に設定できます。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show ipv6 mld snooping multicast-address user または show ipv6 mld snooping multicast-address vlan <i>vlan-id</i> user	スタティックなメンバー ポートおよび IPv6 アドレスを確認します。
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

マルチキャスト グループからレイヤ 2 ポートを削除するには、**no ipv6 mld snooping vlan *vlan-id* static mac-address interface interface-id** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。グループからすべてのメンバー ポートが削除された場合、このグループは削除されます。

次に、IPv6 マルチキャスト グループをスタティックに設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# ipv6 mld snooping vlan 2 static FF12::3 interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config)# end
```

マルチキャスト ルータ ポートの設定

MLD スヌーピングでは、MLD クエリーおよび PIMv6 クエリーを介してルータ ポートについて学習しますが、Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使用しても VLAN にマルチキャスト ルータ ポートを追加できます。マルチキャスト ルータ ポートを追加 (マルチキャスト ルータにスタティックな接続を追加) するには、スイッチ上で **ipv6 mld snooping vlan mrouter** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。



(注)

マルチキャスト ルータへのスタティック接続は、スイッチ ポートに限りサポートされます。

VLAN にマルチキャスト ルータ ポートを追加するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>ipv6 mld snooping vlan <i>vlan-id</i> mrouter interface <i>interface-id</i></code>	マルチキャスト ルータの VLAN ID およびマルチキャスト ルータにインターフェイスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 指定できる VLAN ID 範囲は 1 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。 このインターフェイスには物理インターフェイスまたはポート チャンネルを指定できます。指定できるポート チャンネル範囲は 1 ~ 72 です。
ステップ 3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	<code>show ipv6 mld snooping mrouter [vlan <i>vlan-id</i>]</code>	VLAN インターフェイス上で IPv6 MLD スヌーピングがイネーブルになっていることを確認します。
ステップ 5	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

VLAN からマルチキャスト ルータ ポートを削除するには、`no ipv6 mld snooping vlan vlan-id mrouter interface interface-id` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、VLAN 200 にマルチキャスト ルータ ポートを追加する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# ipv6 mld snooping vlan 200 mrouter interface gigabitethernet1/0/2
Switch(config)# exit
```

MLD 即時脱退のイネーブル化

MLDv1 即時脱退をイネーブルに設定した場合、スイッチはポート上で MLD Done メッセージを検出するとただちにそのポートをマルチキャスト グループから削除します。即時脱退処理機能を使用するのは、VLAN の各ポート上にレシーバーが 1 つだけ存在する場合に限定してください。同一ポートにマルチキャスト グループのクライアントが複数ある場合は、VLAN で即時脱退をイネーブルにしないでください。

MLDv1 即時脱退をイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>ipv6 mld snooping vlan <i>vlan-id</i> immediate-leave</code>	VLAN インターフェイス上で、MLD 即時脱退をイネーブルにします。
ステップ 3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	<code>show ipv6 mld snooping vlan <i>vlan-id</i></code>	VLAN インターフェイス上で即時脱退がイネーブルになっていることを確認します。
ステップ 5	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

VLAN で MLD 即時脱退をディセーブルにするには、`no ipv6 mld snooping vlan vlan-id immediate-leave` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、VLAN 130 上で MLD 即時脱退をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# ipv6 mld snooping vlan 130 immediate-leave
Switch(config)# exit
```

MLD スヌーピング クエリーの設定

即時脱退がイネーブルでない場合に、ポートが MLD Done メッセージを受信すると、スイッチはポートで MASQ を生成して、Done メッセージが送信された IPv6 マルチキャスト アドレスに送信します。ポートがマルチキャスト グループから削除される前に、送信される MASQ 数およびスイッチが応答を待機する時間を任意で設定できます。

スイッチまたは VLAN に MLD スヌーピング クエリーの特性を設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>ipv6 mld snooping robustness-variable value</code>	(任意) スイッチが一般クエリーに回答しないリスナー (ポート) を削除する前に、送信されるクエリー数を設定します。指定できる範囲は 1 ~ 3 です。デフォルトは 2 です。
ステップ 3	<code>ipv6 mld snooping vlan vlan-id robustness-variable value</code>	(任意) VLAN 単位でロバストネス変数を設定します。これにより、MLD レポート応答がない場合にマルチキャスト アドレスがエージングアウトされるまでに MLD スヌーピングが送信する一般クエリー数が決定されます。指定できる範囲は 1 ~ 3 です。デフォルトは 0 です。0 に設定すると、使用される数はグローバルなロバストネス変数の値になります。
ステップ 4	<code>ipv6 mld snooping last-listener-query-count count</code>	(任意) MLD クライアントがエージングアウトされる前にスイッチが送信する MASQ 数を設定します。指定できる範囲は 1 ~ 7 です。デフォルトは 2 です。クエリーは 1 秒後に送信されます。
ステップ 5	<code>ipv6 mld snooping vlan vlan-id last-listener-query-count count</code>	(任意) VLAN 単位で最後のリスナー クエリー カウントを設定します。この値はグローバルに設定された値を上書きします。指定できる範囲は 1 ~ 7 です。デフォルトは 0 です。0 に設定すると、グローバルなカウント値が使用されます。クエリーは 1 秒後に送信されます。
ステップ 6	<code>ipv6 mld snooping last-listener-query-interval interval</code>	(任意) スイッチが MASQ を送信した後、マルチキャスト グループがポートを削除するまで待機する最大応答時間を設定します。指定できる範囲は、100 ~ 32,768 ミリ秒です。デフォルトは 1000 (1 秒) です。
ステップ 7	<code>ipv6 mld snooping vlan vlan-id last-listener-query-interval interval</code>	(任意) VLAN 単位で最後のリスナー クエリー インターバルを設定します。この値はグローバルに設定された値を上書きします。指定できる範囲は、0 ~ 32,768 ミリ秒です。デフォルト値は 0 です。0 に設定すると、グローバルな最後のリスナー クエリー インターバルが使用されます。
ステップ 8	<code>ipv6 mld snooping tcn query solicit</code>	(任意) トポロジ変更通知 (TCN) 送信請求をイネーブルにします。これにより、VLAN は設定された数のクエリーに関する IPv6 マルチキャスト トラフィックすべてをフラッドイングしてから、マルチキャスト データの受信を要求するポートに対してだけマルチキャスト データを送信します。デフォルトでは、TCN はディセーブルに設定されています。
ステップ 9	<code>ipv6 mld snooping tcn flood query count count</code>	(任意) TCN がイネーブルの場合、送信される TCN クエリー数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 10 で、デフォルトは 2 です。
ステップ 10	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	<code>show ipv6 mld snooping querier [vlan vlan-id]</code>	(任意) スイッチまたは VLAN の MLD スヌーピング クエリア情報を確認します。
ステップ 12	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

次に、MLD スヌーピングのグローバルなロバストネス変数を 3 に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# ipv6 mld snooping robustness-variable 3
Switch(config)# exit
```

次に、VLAN の MLD スヌーピングの最後のリスナー クエリー カウントを 3 に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# ipv6 mld snooping vlan 200 last-listener-query-count 3
Switch(config)# exit
```

次に、MLD スヌーピングの最後のリスナー クエリー インターバル（最大応答時間）を 2000（2 秒）に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# ipv6 mld snooping last-listener-query-interval 2000
Switch(config)# exit
```

MLD リスナー メッセージ抑制のディセーブル化

デフォルトでは、MLD スヌーピング リスナー メッセージ抑制はイネーブルに設定されています。この機能がイネーブルの場合、スイッチは、マルチキャスト ルータ クエリーごとに MLD レポートを 1 つだけ転送します。メッセージ抑制がディセーブルの場合は、複数のマルチキャスト ルータに MLD レポートが転送されます。

MLD リスナー メッセージ抑制をディセーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	no ipv6 mld snooping listener-message-suppression	MLD メッセージ抑制をディセーブルにします。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show ipv6 mld snooping	IPv6 MLD スヌーピング レポート抑制がディセーブルであることを確認します。
ステップ 5	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

MLD メッセージ抑制を再びイネーブルにするには、**ipv6 mld snooping listener-message-suppression** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

MLD スヌーピング情報の表示

ダイナミックに学習された、あるいはスタティックに設定されたルータ ポートおよび VLAN インターフェイスに関する MLD スヌーピング情報を表示できます。MLD スヌーピング用に設定された VLAN の MAC アドレス マルチキャスト エントリも表示できます。

MLD スヌーピング情報を表示するには、表 25-2 に示す特権 EXEC コマンドを 1 つ以上使用します。

表 25-2 MLD スヌーピング情報を表示するためのコマンド

コマンド	目的
<code>show ipv6 mld snooping [vlan <i>vlan-id</i>]</code>	<p>スイッチ上のすべての VLAN または指定された VLAN の MLD スヌーピング設定情報を表示します。</p> <p>(任意) 個々の VLAN に関する情報を表示するには、vlan <i>vlan-id</i> を入力します。指定できる VLAN ID 範囲は 1 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。</p>
<code>show ipv6 mld snooping mrouter [vlan <i>vlan-id</i>]</code>	<p>ダイナミックに学習された、あるいは手動で設定されたマルチキャスト ルータ インターフェイスの情報を表示します。MLD スヌーピングをイネーブルにすると、スイッチはマルチキャスト ルータの接続先インターフェイスを自動的に学習します。これらのインターフェイスはダイナミックに学習されます。</p> <p>(任意) 個々の VLAN に関する情報を表示するには、vlan <i>vlan-id</i> を入力します。指定できる VLAN ID 範囲は 1 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。</p>
<code>show ipv6 mld snooping querier [vlan <i>vlan-id</i>]</code>	<p>VLAN 内で最新に受信した MLD クエリー メッセージの IPv6 アドレス および着信ポートに関する情報を表示します。</p> <p>(任意) vlan <i>vlan-id</i> を入力して、単一の VLAN 情報を表示します。指定できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。</p>
<code>show ipv6 mld snooping multicast-address [vlan <i>vlan-id</i>] [count dynamic user]</code>	<p>スイッチまたは VLAN のすべてあるいは特定の IPv6 マルチキャスト アドレス情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • count を入力して、スイッチまたは VLAN のグループ数を表示します。 • dynamic を入力して、スイッチまたは VLAN の MLD スヌーピング学習済みグループ情報を表示します。 • user を入力して、スイッチまたは VLAN の MLD スヌーピングユーザ設定グループ情報を表示します。
<code>show ipv6 mld snooping multicast-address vlan <i>vlan-id</i> [<i>ipv6-multicast-address</i>]</code>	<p>指定の VLAN および IPv6 マルチキャスト アドレスの MLD スヌーピングを表示します。</p>

